

## ■ 子宮頸癌のワクチン治療（第2弾）

わが国では、子宮頸癌で毎年約3,000人もの尊い命を失っています。以前から、子宮頸癌とイボとの関連が言われていましたが、最近の研究で、ヒトのイボウイルス（発癌性ヒトパピローマウイルス16型および18型）が子宮頸癌の原因であることが突き止められました。そこで、イボの感染を予防するワクチン（商品名：サーバリックス）が開発され、欧米では2007年から実用化されています。

日本でも、10月には承認され、12月中旬よりワクチン接種開始となります。ワクチンは1クール3回（2回目は1ヵ月後、3回目は6ヵ月後、保険適用なしで1回約1万円）の接種となります。ワクチン接種から6-7年の効果が確認されており、10歳以上の女性に接種可能です。

子宮頸癌の発病が多い年齢は、20代後半～30代という妊娠・出産の時期とも重なっています。子宮頸癌の撲滅に向けて当院でもワクチン接種の予約開始です。

平成21年11月分原稿

はらクリニック院長 原 徹